

高齢化および失業政策が世代別失業率に与える長期的影響

三宅伸治 (西南学院大学 経済学部)

若年失業率上昇の問題を扱うことのできる 2 世代重複モデルを構築し、少子高齢化や失業政策 (失業給付額の変更) が若年世代の失業率と老年世代の失業率にどのような影響を及ぼすかについて数値例をもとに分析した。若年世代・老年世代ともに労働を供給する非ワルラス的な労働市場からなる経済環境において、複数定常均衡が存在することを示した。また、少子高齢化や失業政策が、各世代の、定常状態における失業率、一人あたり生産量、賃金、税率等に対して及ぼす影響は、経済が高位の定常状態あるいは低位の定常状態にあるかによって異なる可能性があることを示した。